

大人しそうな巫子さんに催眠かけて アヘるまで強制らぶらぶえっち♥

カオティックちくわ

//トラック1

SE:鳥のさえずり

SE:ほうきで掃く音

「はあ……朝の陽ざしが気持ち良いですね……お掃除しながら寝てしまいそうです」

「……なんて、いけません！ 私は由緒正しき神社の巫女なんですから。
今日もしっかりお勤めしないとです！」

SE:砂利を踏み近づいてくる

「あ、和菓子屋のおじいさま、おはようございます！
腰の調子はいかがですか？」

「むむう……あまり良くない、ですか。それでは、しっかりお祈りをしますね」

「おじいさまの腰が、早く良くなりますように……。はい、しっかりご祈祷しました！」

「いえいえ、巫女として当然のことです！
おじいさまには小さなころから可愛がってもらっていますし」

「お礼におまんじゅうを……？ うわあい！ 嬉しいです！
お勤め中ですが、食べちゃいたいです……うう……！」

「あのう……お父様には内緒にしてくださいね？
といったつきまあす……あむつ……むぐむぐ……んん～！」

「やっぱりおじいさまの作るおまんじゅうは
町内一……いえ、日本一です！」

「え……もうお仕事に戻るんですか？ くれぐれも無理しないでくださいね。
お勤めが終わったら、和菓子買いに行きますから」

「はい、それでは大事にです！
あ、ごちそうさまでした～！」

SE:砂利を踏みつけ遠のいていく

「残ったおまんじゅうも……あむつ。むぐむぐ……ごっくん。
はう～……幸せです……」

SE:砂利を踏みながら近づいてくる音

「あ、おはようございます！
あまりお見掛けしない方ですね……本日はどうされましたか？」

「ご祈祷ですね、かしこまりました。
交通安全、家内安全、商売繁盛……その他いろいろ受け付けております！」

「安産祈願……？ もちろんございますが……
……男性の方のみで受けられるのは珍しいですね」

「あ、いえ……！ 男性のみでも可能ですよ。
奥様のために、ですかね？ 素敵な旦那様です！」

「それでは受付にご案内いたします。こちらへどうぞ！」
……人目につかないところで受けたい？ ど、どういうことでしょうか？」

「……何か特別な事情がおありなんですね。
あの林の中の奥で……？ わ、わかりました、参りましょう」

(若干の時間経過)

SE:森っぽい音(鳥のさえずりも聞こえる)

SE:土を踏む音

「……ふう。この辺りでいかがでしょうか？」

「はい、ほとんど人は来ないです。
声や物音もあちらの方には聞こえないみたいで……落ち着いてお話を出来ますよ」

(おちんちは恥ずかしそうにハッキリとは言わず)

「それで、いかがいたしましょうか？
……え……おちん……ちんに、直接、お祈りしてほしい……？」

「え、えっと……そのような安産祈願は、その……！
あの、奥様も悲しまれると思いますし……！」

「奥様は……いらっしゃらない？
ええと……どういう……？ 近い将来のために……？ ふええ……？」

(独り言で焦っている)

「ううう……どうしよう、どうすればいいんでしょう……？
私ったら、まだ修行が足りないです……！」

SE:指パッチン

SE:もやもや～という不思議な音(催眠)

(以下、催眠にかかっている)

「つっ……！」

「……これより、おちんちんをしごきながらの……いやらしいお祈りを始めます……
早速ズボンを脱がせますね……」

SE:ベルト力チャカチャ

SE:チャックを降ろす

「はあ……はあ……もう大きくなっています……
パンツを突き破りそうですよ……」

「すでに孕ませ精子は十分詰まっているそうですが……
巫女としてお力添えして、より強力なモノに致します……」

「私の手で、握って……んんっ、熱い……火傷してしまいそうです……
では、上下に擦りますね……んっ、んんっ……」

「ふえ……？ 巫女が下品な言葉をかけながら……シコシコすれば……
もっと強力に、祈りは届くのですか……？ わかりましたあ……」

「あふっ……手の中で、暴れて……はあ……ううっ……
いいこにしてください……そうじやないと……お祈りできないですう……」

「はああっ……んんっ……まだ、グングン膨らんでいきますよおつ……
んんっ、すごいですねっ……んっ、んんっ……」

「んっ……んんっ……先端から、お汁が出て来ました……！
これは、精子では、ありませんよねっ……？」

「我慢汁……というのですか……はうっ……んんっ……
すんすん……んはあ……いやらしい香り……んっ、はあっ……」

「少し、味を確かめてみましょう……ふふっ……このお汁……
指で触ると、糸をひきますね……ぺろっ……んっ……少しょっぱいです……」

「この中にも、少し精子が入っている可能性があるのですか……？
ふあああ……おちんちんって、不思議なんですね……」

「では、この我慢汁を使って……シコシコの刺激を、変えていきましょう……。
まずは、掌に……んっ……先端をくるくる擦り付けて、お汁をつけますよ……」

「くる……くる……あんっ……おちんおちんぴくぴく震えて……
お汁もダラダラ溢ってきてます……」

「あふ……私の掌、ベとべとになってしまいました……うふふっ……

では、これでまた棒のところを握って……」

「んっ、んんっ……どうですかあ……？
気持ち良い、でしょうか……？ んっ、はあっ……んんっ……」

「ああ……うっとりしています……
濃厚な精子を放出しそうな表情ですね……んっ、んんっ……」

「はあっ……んっ……元気な赤ちゃんができますようにっ……
いっぱい……お祈りを込めて……もつよシコシコ、しますっ……」

「はっ、んっ……孕ませ精子っ、たくさんぴゅっぴゅできますように……
はあっ、んっ、んっ……」

「出そうですかっ……？ いいですよっ……
どのような精子が出るか、一緒に確認しましょうっ……」

(射精に向けて一気に手の動きが早くなる)

「んっ、んっ……はあっ、はあっ、おちんちん、手の中で硬くっ……
はあっ、はあっ……さあっ、思いっきりっ……んんんんっ……！」

SE:射精

「はあううううっ……！」

「はあ一……はああ一……真っ白で、濃くて……濃厚な精子です……！
オスのにおいもむわむわして……はああ……♡」

「私の顔まで飛んできて……べとべとになっちゃいましたあ……
んんっ……ぺろっ、ペちゃ……我慢汁とはまた違う味ですね……」

「えへへ……とっても美味しいですよぉ……
全部舐めとって、飲み干してしまいたいくらいですぅ……♡」

「はー……こんなに大量に出したのに……まだ、いきりたっていますよぉ……
すさまじいおちんちんですね……♡」

「では、この後は……祈りがしっかり届いたかどうかを、
私のおまんこで確かめてみましょう……」

「さあ、仰向けになってください……
私が跨って、たくましいおちんちんと精子……しっかり飲み込みますから……」

SE:体勢を変える音(土を踏みしめるような)

「はああ……はあ……パンツを脱ぐので、待ってくださいね……

ひや、んんっ…パンツに何か液体がついて……糸を引いてます……！」

「私からも、我慢汁が出るのでしょうか……？
……ふえ？ これは、愛液というのですか？」

「おまんこが、おちんちんを受け入れるための体液……
ふああ……私の体も、子作りできるようになっているんですね……」

「なんだか、恥ずかしいです……でも、はやすく、シたい……
これがムラムラなんでしょうか……？」

「んんっ……もう我慢できません……！
それでは、入れちゃいます……♡」

「んんっ、んっ、太くて、かたあいっ……はうっ……
なかなか、入りませんっ……ん、ううっ……んああああっ！」

(一瞬正気に戻ろうとする)

「っ！？ つつ……ううっ、あれっ……？ 私、何して……
あそこが、っじんじん、するつ……くつ、うう……」

SE:指パッチン
SE:ぼわぼわとした音

(再度催眠にかかる)

「はあうっ……そうでした……子作りの実践中でしたね……
うふふつ、私ったら……はあ、んっ……」

「ほら……あっという間に、根元まで飲み込んでしまいましたよ……
見えますか……？ 私のおまんことあなたのおちんちんが、繋がっています……」

「んっ、はあっ……一緒に、目いっぱい気持ち良くなって……
子作りセックス、堪能しましょうねっ……はあっ、ああっ……」

「それじゃあ、動かしていきますっ……
あっ……んっ、んっ、はあんっ、ああっ……あんっ……」

「いかがですかっ……処女巫女のおまんこっ……んっ、はあっ……
キツキツで、んっ、いつでも射精しちゃいそう、ですか？」

「嬉しいですっ……お役に立ててっ、んっ、はあっ……
巫女服を着たままのっ……神聖なのに下品な子作りセックス、味わってくださいいっ……」

「あっ、あんっ……んんっ……ふ、ああっ、あんっ……♡
んっ、ん、ああっ……あ、あああうっ……んっ……」

「はしたない声つ……いっぱい出ちゃいますっ……んつ、ああつ……
自分で腰を動かしながら、あつ、初めてのエッチで、つふ、気持ち良くなるなんてつ……」

「はああんつ、んつ、あうつ、んんつ……腰、止まりませんっ……
あつ、あんつ……はううつ、おちんちんつ、もっと、欲しいですううつ……！」

「あつ、くううつ……んつ、んんつ、あ、ああんつ！
パンパンって、音つ……林の中に響いてつ、んつ、はああつ」

「これえつ、私、クセになっちゃいますうつ……
このおちんちんで、一生……何度も、子作りしたいですうつ……♡」

「んつ、はあつ、あんつ、あんつ……んう、んんつ、はあつ、あんつ！
あううつ、私つ……イッちゃいそうつ、んつ、ああつ、あんつ！」

「あなたも、出ちゃいそうですかあつ……？
あんつ、はあつ、ではつ、同時にイきましょうつ……！」

「絶頂びくびくおまんこでつ……は、ああ、あつ！
精子い、あつ、いっぱい搾り取ってつ……んんつ、子宮の奥まで飲み込みますからあつ！」

「思いっきり、射精してくださいいつ！ あつ、あんつ、んつ！
ふあああつ、ん、く、うううつ！ イクつ！ イキますうううつ！」

SE:射精

「んつはああああああああああああつ……！」

「あふうつ……はあつ……んんつ……
奥につ……熱いのつ……ドクドク注ぎ込まれてますううつ……んんんつ……」

「はあつ、はあーーつ……♡
中イキ中出しセックス……きもちよすぎてええつ……ああつ、はああつ……♡」

「おまんこ、キュンキュンしてええつ……絶頂の余韻が……まだ……んんつ♡」

SE:おちんちん抜く音

「んふああつ……ああつ……ぬぷって、抜けました……
はあ……はああ……見て下さい……濃厚な精子……いっぱい溢れてきましたあ……♡」

「間違いなく……安産祈願成功ですね……♡ えへへ……♡」

SE:土を踏む音(体勢変更)

「あふつ……んんつ……いかがでしたか？
……ご満足いただけようで、良かったです……私も、夢中になってしまいました……♡」

「またいつでも安産祈願に、お越しくださいね……♡」

SE:指パッチン

SE:催眠解ける音

(催眠、解ける)

「……あ、あれ……？ 私、ここで何を……？」

「安産祈願を、していた……？」

「そう、ですか……ええと……お祈りは、もう終わったんですか……？」

(以下、独り言っぽく)

「どうして、こんなところで……それに、記憶が……
っくん、お腹の中、なんだか熱い……それに、お股もなんだか、変……」

「あ、あの……もう戻っても、大丈夫でしょうか？
それでは、失礼いたしますっ……」

SE:土を踏みしめて走る音がフェードアウトしていく

II トラック2

SE:鳥のさえずり

SE:ほうきで掃く音

「うう……まだ、お股がじんじんする……」

「昨日、パンツに血と白いのが滲んでたけど……

それと関係があるのかな？ あうう、何かの病気だったらどうしよう……」

SE:砂利を踏みながら近づいてくる音

「つ……あなたは……！

……今日も、同じお祈りを受けたいのですか……？」

「あの……つかぬ事をお聞きしますが、
本当に、安産祈願だけが目的なのでしょうか……」

「えっと……昨日、林の中に入ってから記憶が曖昧で……
失礼を承知で、つい……」

「教えてください。あの時、一体何が……」

SE:指パッチン

SE:洗脳

「つつ……」

「では……今日も子作りをいたしましょう……♡」

「さあ、私の手を取って……

たくさん愛し合いましょうね……えへへ♡」

(若干の時間経過)

SE:森っぽい音(鳥のさえずりも聞こえる)

SE:土を踏む音

「はあ……着きましたよ」

「今回は、たっぷり調教をしてくださるのですか……？

うわあ、どんないやらしいことを体験できるんでしょう……楽しみです♡」

SE:衣擦れ

「は、ああっ……いきなり服を脱がせて何をなさるんですかあ……？

んんっ……あっという間にブラジャーまで外されちゃいましたあ……」

「んううう……おっぱい、あまり大きくないですが、どうでしょう……？
敏感そうで可愛い、ですか？ 嬉しいです……」

「んっ、大きい手です……おっぱい、全部包まれちゃいました……」

「あんっ！ 乳首摘ままれたらっ……んんっ……ビリビリ、しますっ……！
はう、んんっ、ああっ……あうううっ……」

「ひ、ううっ……あふっ、んんっ……どんどん乳首、硬くなっちゃいます……
あ、ああっ……ひ、ううっ……ああんっ……」

「あ、あああっ……！ 両手で、そんなに乳首いじられたら、あ、ああ、ああっ……
頭が、真っ白に、なって……んっ、は、ううっ……」

「はあっ、はあっ……もう、おまんこ……濡れちゃってるの、わかりますっ……
はあ、ん、んんっ……きゅんきゅんってして……はあ、あああっ……」

「はうんっ！ パンツの上から……なぞるなんてえ……
ふ、ああっ……あんっ……布越しなのに、いやらしい音、聞こえますっ……」

「ん、ああっ！ はあうんっ……そこ、はっ……クリトリス、ん、あ、ああっ……！
直接じゃないのに、こんなに気持ちいいなんて……あんっ、ああっ……！」

「んんっ！ はああっ、あああっ！
指が、パンツの中につ、ひ、うううっ！」

「ひ、ああああっ、刺激が、全然違いますっ……！
ああっ！ あんっ！ 乳首とクリ、同時に直接責められたらっ……！」

「んんんううっ、あ、あ、あああっ！
身体が、ビクビク勝手に痙攣しちゃいますっ、ん、ふ、あ、ああっ！」

「あううっ、んっ、んっ、このままじゃ……
い、イッちゃいますっ……！ は、あああんっ、あああっ！」

「はあああああああああああっ……！」

「あううっ、んっ……んんっ……はあっ、はああっ……
あふう一つ……イッちゃい、ました……♡」

SE:指入れ音

「うううんっ！？ そんなっ……ittaばっかりなのに、
指、入れられちゃつたらっ……！ あ、あっ、あああっ……！」

「は、あああっ……くちゅくちゅって音、は、ああんっ……
す、すごっ……はうっ、う、んんっ……」

「また、すぐにイっちゃいますよおつ……！ あ、んんっ！
ふ、ええ？ 今度は、我慢しなきやダメって……？ そ、そんなあつ……」

「あ、ああつ……でもつ……あんつ……
あなたの言うことなら聞きますう……頑張って、我慢しますう……！」

「んつ、ああつ……指のピストン、おちんちんとは全然、違う感覚ううつんつ……
はああつ……あああんんつ……！」

「こんなことされたらっ……欲しくなっちゃいますうつ……
んつ、はあつ、あうつ、んんつ……」

「ふええつ……何が、欲しいの？ って……そんなのつ……
そんなの、決まってるじゃないですかああつ……！」

「あ、ああつ……あなたの、太くて硬い……んつ、ああつ……
立派なおちんちんですつ……♡」

(指の動きが激しくなる)

「はあんつ！？ あ、あ、ああつ！
そんな、かき回されたら、あんつ、ひつ、うつ、んん、んんううつ！」

「あ、あんつ、ちゃんとおねだりできたご褒美って……
あ、あんつ、そんなあつ……あんつ、ふ、ああつ！」

「ごほうびならっ、んつ、ああつ、おちんちん、ぶち込んで欲しかったですうつ♡
んつ、んつ、はあつ、あ、ああつ！」

「ああつ……で、でもつ……んつ、はうつ、ああつ……
手マンも、ひ、ああつ、たまらない、ですううつ……！」

「んつ、んつ、乳首も、さつきみたいにつ、いっぱい責めてくださいつ♡
はあ一つ、あんつ、ふ、あああ一つ……♡」

「んひいいいんつ！ それ、それですつ……♡
乳首、んつ、ああつ、摘ままれたり、くにくにされたりしながら手マン、イイつ♡」

「あああんつ、まだ、おちんちん、入れてもらえないならあつ……
指、二本にしてもつともつとつ、はあんつ、かき混せてくださいいいいつ」

(指二本)

「んつ、ふ、あああああああああつ～～♡ 指いつ、きたあつ……♡
はあ、ああああつ、しゅごつ……う、ううんつ……広げられてつ、んつ、んんつ♡」

「はあつ、はああつ、もう、パンツつ……
愛液がぐしょぐしょになってつ……はあつ、あううつ、汚れちゃってますううつ……」

「お願いですっ……パンツ、脱がせてくださいっ……
巫女服着たままなのに、ブラもパンツも脱いだ、エッチな楓にしてくださいいっ……♡」

SE:パンツ脱ぎ音

「んっ……はあっ……脱いじゃいましたああっ……
あ、あっ……エッチなお汁、ぼたぼた垂れてきますう、ああんっ……」

「んんっ、はうっ……これであなたも、
もっとおまんこ、いじりやすくなりましたよね……？」

「えへへっ……はあ、ああんっ……
もっと、調教してくださいい……♡」

「んううっ……あ、ああっ……ああんっ……！
パンツ脱いだらまた、感じ方が変わりましたあっ……んっ、ふああっ」

「あううっ……私のクリトリス、物欲しそうに勃起して
ヒクヒクしちゃってるの、分かりますうつ……ああっ……」

「手マンしながら、クリちゃんも親指でいじめてくださいっ……♡
いっぱい……責めてほしいんですけどうつ……ん、んんっ……」

「はああっ、あ、あ、あ、あっ！
あうううっ、しゅ、ごっ……ひ、いつ、んんんんっ♡」

「あーっ、あああああーあふっ、んんんっ！
んっ、ああああっ、んんっ、ふ、あああっ！」

「きもち、いつ……♡ んっ、ふ、ああ、ん、んんんっ！
あううっ、乳首も、もっと強く、コリコリしてほしいですうつ……♡」

「ああ、ああっ、あんんっ！ んんっ！
気持ち良いとこ責められて、あああんっ、感じまくっちゃうっ……♡」

「んっ、んっ、あああっ、ごめんなさいっ……もう、私……
我慢の限界ですっ……イキたいっ……イキたいんですっ……！」

「あ、あああんっ、イクの、許可してくださいっ……
後でいっぱい、あなたのおちんちん、おまんこで気持ち良くしますからああっ♡」

「ふ、あああっ、ああんっ、お許し、ありがとうございますっ♡
んっ、んっ、んううっ、はしたなくイクところっ、ちゃんと見てくださいいっ……！」

「あ、あ、あ、あ……ああっイクっ♡
イクううっ……あああっ、すごいの、来ちゃうううっ……♡」

「あつ、あつ、んつ、んつ、ふ、あ、あ、あ、あつ……！」

SE:潮吹き

「ふあああああああああああああああんつ……！」

「ひやあうつ……！ んつ、はあつ、あううつ……
私、クジラさんみたいにっ……潮吹いちゃいましたっ……ひつ、あああつ……」

「はあ一つ……はあ一つ……♡
おまんこが、パクパク物欲しそうに開いたり閉じたりしちゃってますっ……」

「今度こそ、あなたのおちんちんで、イかせてくださいますか……？
はあうつ……嬉しいですうつ……」

「私を責め続けている間に、ズボンがはち切れそうになってましたもんね……
えへへ……♡ ドスケベなおちんちん……かわいいです……♡」

「対面座位、ですか？ わかりましたあ……
密着しながらのセックス、気持ちよさそうです……♡」

SE:土を踏む音
(対面座位の体勢)

「んつ……抱き着きながら、跨ってえ……
はううつ……顔が目の前に……恥ずかしいです……」

「私の表情、とろけそうでいやらしいですか……？
んむう……あなたが私をエッチにしちゃったからですよお……」

「責任、取って下さいね……？ エヘヘ……♡」

「それでは……入れちゃいます、よつ……
んつ、んんううつ……んんつ、ズブズブ、飲み込んでいきますうつ……！」

「昨日まで、処女だったのにい……はあつ……
あなたの形に、広がっちゃったんですね……あああんつ……！」

「んううつ……♡ 奥までぴったり、んんつ、入っちゃいましたあ……♡
は一つ……はあ一つ……入れただけで、軽くイっちゃいましたよお……♡」

「指もいいですが、やっぱり……おちんちんが最高、です……
はあんつ……んつ、硬くて熱くて……たくましいドクドクが伝わってきますっ……」

「じゃあ、動かしますよおつ……んつ……はあつ……あんつ……
んううつ……私、いっぱい濡れちゃったからつ……音がえっちい……♡」

「ぬるぬるおまんこがつ……あああつ……ガチガチおちんちん……

ぴっちり包み込んでえつ……あんつ……はああつ……」

「出たり入ったりするたびっ、んつ……はあつ……
すごい、感じちゃいますうつ……んう、はあつ……あんつ……」

「んううつ……はあつ……やみつきになっちゃいそうですつ……
んつ、これえつ……♡」

「うっとりしながら、感じてるあなたの顔が目の前にあってえ……
んつ、んんつ……ラブラブ子作りセックスって感じがしますうつ……♡」

「はあ、ああんつ……昨日みたいに……いえ、昨日よりもつ……
濃い精子つ……子宮の奥まで、いっぱい注いでくださいね……♡」

「あんつ、んんつ……はうつ……腰を動かすたびにつ……
んんうつ、おまんこの中で、ああつ……ビクビク震えて……」

「んつ、んんつ……気持ち良く、なってくれてる証拠ですねえつ……♡
はあ一つ……あんつ、んつ、はうつ……私も、気持ち良いですつ……♡」

「んつ……腰の動き、少し変えて見ますねつ……
上下だけじゃなく……前後に、あんつ、してみたりつ……」

「はあつ、あうつ……んつ……この動き、男の人の腰振りに近くてつ……
ああんつ……すごく、いやらしいですつ、う、んんんつ……」

「どうですかつ……？ 巫女が、自分に跨ってつ……はあつ、ううつ……
エッチな腰振りする姿つ……んつ、お気に召して下さりますかつ……？」

「あはあつ……♡ ギラギラした目になってますつ……
んつ、あなたも、すごく興奮してるんですねつ……♡」

「う、ううんつ……はあつ……私もつ……オス全開のその目つ……
ゾクゾクしちゃいますつ……あ、あああつ……♡」

「動物になって、あんつ、ああつ……
本能のままに、あつ、交尾してるみたいでつ……んつ、んつ」

「あんつ、腰振り、止まりません、んつ……こんなはしたない姿つ……
あんつ、あなた以外には、見せられませんつ……♡」

「あああつ……あんつ、はあつ、んつ……
今度は、ぐりんぐりんって回しながら、おちんちん擦り付けてみましょうつ……♡」

「んんうつ、はうつ、んつ……ああつ……これも、またつ……
気持ち良さが違って、ひいつ……んつ……あああつ……！」

(グラインドに夢中になる楓)

「あううっ、んつ、はあつ……はあ一つ……んつ♡
んんつ、あうつ……んつ、んつ、あううつ……あああつ……♡」

「は、ううつ……すみませんっ……夢中で腰を動かして……
自分ばっかり気持ち良くなっていました……」

「無我夢中になってる私を見てると、興奮する……？
はあんつ……恥ずかしいですっ……♡」

「そ、それじゃあ……中出しセックスに向けて……
もっともっと乱れても、受け入れて下さいますか……？」

「……ふふっ、それじゃあ……
あなたにぎゅうってしがみついて、もっと激しく、動かしますよおつ♡」

(抱き着く)
(獣のように腰を振り、感じ始める楓)

「あんつ、あつ、あんつ！　はあつ、んうつ、んううつ！
思いっきり、腰打ち付けてっ……ん、おおつ、感じまくっちゃいますうつ♡」

「はあつ、あつ♡　お“つ♡　んううつ、ふ、お“つ♡
しゅ、しゅごつ……ぱちゅんぱちゅんって、エッチな音つ、響いてますう！」

「はあつ、あうつ、んつ、あああつ、きもち、いいつ♡
お、んつ、んんつ、ああつ、お“つ♡」

「はあ一つ、ううつ、んつ、あつ……あううつ！
このおちんちん、いいつ、いいつ♡」

「んつ、耳元でもっと、下品に喘いで、お“つ♡　下品な言葉を言ってほしいですかあつ？
あふつ、んんつ、とんでもないど変態さんですねつ♡　あ、あああつ♡」

//演技指定：耳元で囁き

「いいですよつ……んんつ、ふ、ああつ……
あなたのためにならつ、あんんつ、エッチな命令、聞いちゃいますうつ！」

「お“つ♡　楓の、おまんこにいっ……んんつ♡
あなたの極太おちんぽつ、んんうつズブズブつ、してるんですうつつ♡」

「ああつーああ～つ……！　わらひ(わたし)つ……神様にお仕えしてるつ
神聖な巫女なのにいっ……あううつ！」

「おつ、ひつ、いいつ……♡　自分から腰振つて
おちんぽでひいひい言っちゃう、ああつ、いやらしい娘なんですうつ♡」

「あつ、ああつ、きもちいいつ、きもちいいつ♡
もう、頭の中、あなたのおちんぽでいっぱいですっ、ああ、あ、ああつ♡」

「んんっ一つ♡ あうつ、あつ♡ キツキツおまんこにっ.....
赤ちゃんの種つ、たぷたぶになるまで注いでくださいといつ♡」

「あうつ、お“つ、んつ、はああつ、あんつ、あつ、お“おつ♡
んつ、うつ、ああつ、あううつ、ふ、んつ、あああつ♡」

「あううつ、イキそうですかっ？ あんつ、ああつ！
いいですよっ.....イってくださいといつ♡」

「私の子宮口も、もうつ、んんつ、精子欲しくてっ！
お“つ、んつ！ 降りてきて、準備してますうつ♡」

「あんつ、あ、あつ！ もっと激しく腰振りしますからあつ、
あ、あ、おつ、あ、あつ！ 何も考えず、射精して下さいといつ！」

「私もつ、イキますっ♡ 中出しされながら、イっちゃうんですうう.....！
あんつ、んつ！ つつううつ！ はあつ♡ ううんつ、お“つ♡ お“つ♡ おおつ♡」

SE:射精

「イクうううううううううううううううつ.....！」

「ふ、おおおつ.....んつ、はあ一つ.....ふつ.....ああ一.....んつ一.....♡
おちんぽっ、おまんこの中で、脈打ってっ.....はあつ、あああ一つ.....♡」

「あひつ.....ううつ.....♡ 中出しされながらっ.....あああつ.....
イクの、つ最高つ.....♡ は一つ.....あああつ一.....♡」

「種付けおちんぽセックス.....はあ一.....ああつ.....きもち、いいつ.....♡
ああんつ.....メスに生まれて、よかったですうつ.....ああ一つ.....んんつ♡」

「あふつ、んつ.....まだ、ビクビク、止まらないつ.....♡
ああつ、あんつ.....はあ一.....はあつ一.....♡」

「ひや、ああつ.....おちんぽ、抜かれちゃった.....
あううつ.....精子、垂れて、来ちゃいますうつ.....」

(だんだんフェードアウトしていく)

「あ.....あふ.....ん.....私、はあ.....はあ.....
あ、あれ？ なんか、目の前が.....暗くなつて.....
ふえ.....え.....は一.....あふ.....」

「はあ一.....はあ.....はあ.....ああ.....」

//トラック3

SE:鳥のさえずり

SE:ほうきを掃く音

(吐息のみからスタート。茫然とした感じで掃除している)

「…………」

「私……やつぱり最近、おかしいです……。

昨日なんて……は、恥ずかしい姿のまま林の中にいて……」

「全身がドロドロでびしょびしょで、汗にまみれていました……。
お股の痛みはなかったけど、そのかわり……んんっ」

「はあ……はあ……きゅんってして……
んっ、なんだか……体が熱くて、変な感じに……はあ、ああ……」

「そうです。
あの人が来てから……おかしくなってしまったんです……」

SE:砂利を踏みながら近づいてくる音

「っ！　あなたは……」

「え……話があるから、林の中に行きたい……？
す、すみません……それは出来ません」

「えと……何故かわからないけど、行ってはいけない気がして……
……あれ……？　でも……行きたい気も…し」

(時間をかけて葛藤しながら)

「あ、あの……えと……
や、やつぱり……行きます……」

「どうして……拒否しなきゃ、いけない気がするのに……
身体が……言う事を……」

「本能が、あなたに付いて行けって……うう……」

(場面転換)

SE:林の中と小鳥のさえずり

「また、ここですか……いつもここに来ると、
いつも記憶が飛んでしまって……」

SE: 土を踏みしめる音
(いきなり抱き着かれてキスをされる楓。舌は入らない)

「んんっ！？ ちゅうつ……ちゅぷつ、んんうつ！ ちゅつ、ちゅつ……
んぷああつ！ き、キスなんて……！ いきなり何をするんですか……！」

「え……？ ずっと前から、私のことが好きだった……？
ど、どういうことですか？」

「遠くから見ていて、気持ちの伝え方がわからなかった……？
えっと、じゃあ……私が記憶を失ったのは、あなたが何かしたからですか？」

「気持ちが暴走して、つい、悪戯をしてしまった……？
い、悪戯って……えっと、どういう……？」

(キス、は恥ずかしくて若干はっきり言えない楓)

「あのう……よく分からぬのですが、気持ちはとっても嬉しいです。
で、でもその……いきなりキスをしてきたり、悪戯なんて……」

「あんまり、良くないと思いますよ……？
合意なくそんなことされると女の子は、びっくりしちゃいますから」

「ふえ？ それなら、合意の下でもう一度キスをさせてほしい？」

「そ、そんな……。で、でも……もう私のファーストキス……
さっきあなたに奪われちゃいましたし……うむむむ……」

「ええと……一度だけ、ですよ？ 絶対、ですからね？」

「ん……ちゅつ……はい、おしまいで……んんっ！？
んじゅつ、んむうつ！ ちゅれろつ、れろつ、んんっ！」

「れろろつ、んじゅつ、んっ！ んむあゆ、そんなっ、これ、ディープキスっ……
んむあつ、れるるつ、んじゅつ、ちゅぷうつ……！」

「んむうつ！？ んっ……んあつ、やつ……
なに、してっ……はむつ、ちゅうつ、んあつ、やつ……！」

「胸を揉むなんて、んっ……聞いてませんっ……！
ひつ、んちゅつ、ちゅるるつ……んっ、んんっ……んちゅうつ……」

「んぷあつ……はあつ……はあつ……あれ……？
う、うそつ……んっ……知らない男の人から、胸を揉まれて、んんっ……」

「私……きもち、よくなっています……ふえ……え……？ どう、して……？
ああつ、やつ……そんな激しく揉んじゃつ……ああつ……」

SE:服やパンツをまさぐる音

「ひ、あああっ！？ どこを触っているのですかっ！？
そ、そこは女の子の大事なところでっ、だ、だめっ……やっ、はあっ、ああっ……」

「んっ、んっ……ふ、ああっ……あれ……？
身体が、熱いっ……んっ、ああっ……」

「きゅんきゅんしちゃうっ……んっ、んっ、ああっ……
あっ、あうっ……どうして……？ こんなことされるの、初めて、なのにいっ……」

「あれっ……？ は、はじ、めて……？ あれ、あれ……？
でも、私……この感覚、知っています……ああっ……あんっ……」

「んんっ……くちゅくちゅって、この音もっ……
はうっ……何度も、聞きました……いつ……？ んっ、どこで……？」

「んっ、ああっ……わからないよおっ……
私、どうしちゃったの……ふ、あ、ああっ……」

「ああっ……はうっ……んっ、ああっ……やあっ……
んっ……私、変な声、出ちゃってます……は、あああっ……」

「あうっ……はあーっ……んっ……はあーっ……
もう、濡れてる……？ ふ、え……、なんで、なんでえ……？」

「お願いですう……もう、やめてください……
はっ……神社のお勤めをしないとです……ううっ……」

「こんなことしていたら……んっ、お父様に……神様に、叱られちゃいます……
あっ、はあっ、はあっ……巫女、失格です……！」

SE:指パッチン

SE:洗脳音(いつもとはちょっと違う感じ)

「くっ……ううっ……！？」

「あああっ……！ 身体が、疼くっ……んんっ……
私……どうしちゃったの……！？」

「いつもは、脳まで催眠をかけるけど、今日は身体だけ……？
な、何を言ってるんですか、あなたは……！？」

「昨日みたいに、対面座位で愛し合おうって……え、え？
どういう……あっ……身体が、勝手に……！」

「や、やだあっ……パンツ、脱いじゃうっ……

んんっ……や、いやあっ……！」

SE:土を踏みしめる音

(対面座位になる)

「やだっ……ううっ……男の人に抱き着いて、脚を開くなんて……
はしたない……はしたない、よおっ……」

「んっ……お股に、熱い、硬いのが当たって……
ひいっ……！？ な、なんですか、これえ……！」

「わ、私が何度も味わった……お、おちん……ちん……？
そんな！ 知りません！ 私、あなたのなんて、知りません！」

「んっ、やっ……どうして、自分からお股に、私っ……」

(自分からちんちんを挿入する楓)

「んあっ、あ、あ、ああああんっ！」

「ひぐっ……うううっ……一気に、奥まで入れちゃった……
ああうっ……エッチなんて……したことないのにっ……」

「はあーっ……あっ、ああっ……どうして
お股……きゅんってして……あんっ、喜んでるのぉ？ んんっ……」

(話している途中から主人公が突き上げてくる)

「今日は自分が動く？ え？ え？
な、何を言って——んうっ！ あんっ！ ああっ！」

「あっ、あふっ、んっ、やっ、ああっ！
なっ、なにこれえっ……んっ、はうっ、ああっ、ああっ！」

「私っ……知らない男の人につ、ひつ、ううっ！
突き上げられてつ……ひんっ、ああっ、いやらしい声、出してるうつ……！」

「あっ……お願いですっ……やめてっ……ふっ、ああっ！
やめてくださいっ、んっ、んっ、ああっ、やっ、お願いしますううっ！」

(突き上げ止まる)

「はうっ……とまたあ……はあーっ……はあー……はあー……
今度はこのまま……私のお股から、これ……抜いてください……！」

「な……なんですか……ニヤニヤして……

抜きたいなら自分でやってみろ？ そ、そんなの……簡単ですっ……！」

「んつ……んうつ……？ ふ、ええ……？
あれつ……？ 私、体が、変です……う、ううんんつ……疼いて……」

(楓の身体が勝手に腰を振り始める)

「あんつ……うそつ……私、勝手に、腰、動いてつ……
んつ、ああつ……やつ……あんつ、あああつ……ふ、ああつ……！」

「いやつ……あんつ……どうして、嫌なのにつ……んつ！
どうして、抜かないで、はうつ……エッチしてるのつ……」

「やだあつ……！ とまんない……とまんないよおつ……！
い、いやあつ……動かしたく、ないのにつ……ひつ、ううつ……」

「ああんつ……どうして、ああつ……んんつ、ふ、ああつ……！」

「淫乱な、楓だなって……そんなつ、ち、ちがいますっ！
あなたのかけた、催眠のせいですっ……んつ、ああつ、や、ああつ……！」

「はあんつ……ああつ……こんなに、いやあつ……
あううつ、んつ……や、やめて……私、やめてえつ……」

「はあつ、あうつ、こんなはしたない私、嫌ですっ……
そ、それなら、ああんつ……あなたに、動いてもらった方が、マシですうつ……！」

(主人公が腰を突き上げる)

「あんんつ！？ あつ、あつ！ あつ、ふ、ああつ！
待ってましたと、言わんばかりにっ、ひつ、んつ、突き上げないで下さいいつ……！」

「あんつ、ふ、ああつ……あひつ、ううつ、あ……あ、あつ！
んつ、んつ、やあつ、感じたくないのにつ……んんつ、ああつ！」

「どうしてつ……気持ち良くなっちゃうのおつ、ああつ、ああんつ……！
んつ、あうつ、んつ、ああつ……！」

「あんつ、あつ！ あんつ！ はげ、しいつ……！
ひつ、んつ、んつ、あやつ、やつ、あんつ、ああつ、ああつ……！」

「ひつ、いいつ……！？ な、なにかつ……
身体の中からつ……うつ、ううんつ……くるうつ……あ、ああつ！」

「いやつ、あああんつ、おかしく、なっちゃいますっ……！
ひ、ううつ、とめて下さいつ、じゃないと私つ……このままじゃつ……！」

「あんつ、ああつ……はつ、ああつ……あんつ、あ、あ、あつ……！」

くるっ……ひいっ、ああっ、あ、あ、あああっ！」

(楓のみ絶頂)

「あふっ……あ……ああっ……はあっ……あうっ……
ひっ……あああ……んつ、んんつ……はあーつ……」

「な、なんですか……今……
頭が、真っ白に……なって……はあっ、はあっ……」

「ふえ……？ 私、いつちやつたんですか……？
そ、そんな……そんなはず、ないです……！」

「昨日までも、何度もイッてた……？
うそ……ああ、ああ……ひどい、です……！ ううつ……！」

(勝手に動き始める楓)

「あんっ！？ あんっ……私っ……また、勝手につ……
はあっ……う、ううんっ……ああっ……」

「ひ、いいっ、んんっ……いた、ばっかりなのにつ……
あううつ、腰、動かしちゃつたらっ……はあーっ……ああっ……」

「頭が、おかしく、なっちゃいますっ……うつ、んんっ……あ、あああっ……はううっ……や、ああっ……！」

「やあっ、私、とめてっ……私、だめっ……あんっ……あ、あっ……あんっ、ううっ、いやああっ……！」

「はうっ、そんなっ……私の、お股……
きゅうきゅうって、あなたのを締め付けてるっ……んっ、ああっ！」

「こんなの、私の、意思じゃないですうつ……んつ……
腰振りと、一緒でつ……はあんつ、勝手につつ……あんつ……ふ、ああつ……」

「んっ、んううつ……ふえつ……
精子を、欲しがってる……？ わ、私が、ですかっ……？」

「んっ、そんなはずっ……ありませんっ……
知らない男の人の、精子なんてっ……欲しいはずがっ……！」

「ふ、ああっ……？ すでに昨日まで、たくさん飲み込んだ……？
そ、そんな……あうっ……それじゃあ、白いのは……あなたのつ……！」

「ううっ……ひどい、ひどいですうっ……んっ、ああっ……」

あうつ……あんつ、はあつ……」

「んつ……嫌なら、動くのをやめればいいなんてつ……
そんな、あなたの催眠のせいで、んつ、やめられないんですうつ……！」

「あつ、ああつ……催眠は、既に、解いてる……？
う、うそつ……じゃあ、あんつ、これは、私が……！？」

「ひうつ、認めたくないよおつ……こんなのつ……
いやつ、あんつ……あつ、あふつ、んつ、んんんつ……！」

「あつ……はあつ、んつ……はあつ……
くつ、ううつ……お股、熱くて、溶けちゃいそうつ……んつ、ああつ……」

(前後に腰を振り始める楓)

「ひやううつ……！ 腰の動き、勝手に変わっちゃいましたつ……！
前後につ、動いちゃうううつ、んつ、ふつ……あんつ……ああつ、やつ……」

「やつ……この腰振りつ……いやらしいですつ……
んつ、やあつ……こんなの、いやあつ……」

「はあつ、ああんつ……んつ、んんつ、あうつ……んつ、んつ……
あんつ、ああつ……あうつ……んんつ……」

「んんつ！ 中で、ぐんってつ……おつきくつ……
はあつ、はあつ……な、なんですかその顔はあつ……」

「いや……んつ……興奮、してるんですか……？
んつ、んんつ……こんなはしたない私を見て、興奮なんてしないでくださいといつ……」

(キスをされる楓)

「んむつ！？ ちゅつ……ちゅぱつ……ふつ……
んんつ……あつ……あむつ……れろろつ……ちゅるつ、んんつ……ちゅぷつ」

「んれるつ……んむあつ……あんつ……んふあつ……
キスしたら、もっと締りがよくなつたなんて……そんなこと、ないですう……！」

「んちゅうつ、れるるつ、ちゅぷつ、ちゅぱつ……んつ……
れろろつ、じゅ、ぢゅつ……ぢゅるるるつ……ぢゅぱつ！」

「はあつ、はあつ……やっぱり、キツくなつた……？
ううつ、違う、もんつ……あううつ……」

(お尻を掴まれる楓)

「ひうつ！？ おしり、そんなに掴まないでくださいといつ……！」

何を、する気ですかあ……」

(お尻を掴んでもっと激しく打ち付ける主人公)

(思わずしがみつく楓)

「んうっ！？ ひつ、あんっ！ お尻掴まれて、打ち付けられてるううっ……！
はあっ、あ、あ、ああっ！？ あんっ！」

「う、ううっ！ あああっ！ 奥ツ、奥がああっ……あんっ！
ひうっ、ぶつかって、お“つ……お“つ！」

「う、うそおつ……んんっ、お“つ♡
ぎもち、いいつ……！ はあっ！ あつ、あんっ！ ふつ！ ああっ！ お“つ！」

「う、ううんっ、これっ……ああっ、しゅごっ……
んっ、あつ、あつ、や、やめてえっ！ お“つ！ おつ！ ああんっ！」

「はうっ……お“つ……あんっ、んっ！ ひ、いいつ！
ああうっ！ 気持ち良いとこ、当たっちゃうよおつ！ んっ、ああっ！」

「感じたくないのにいっ！ ああっ、お“つ、おつ♡ 感じちゃうっ……！
んんっ、はあっ！ ああっ！ あううっ！」

「いやあっ、やめてっ！ やめてっつ！ んううっ！
おかしくなっちゃうっ！ いやっ！ 知らない男の人のでっ！ おかしくなるうつ！」

「あ、あんっ、あ、あつ！ あんっ！ あつ！ ひつ！
た、たすけっ……んお“つ♡ お“つ♡ ふ、ああつ♡ んんうお“つ♡」

「ひぐうっ……イクっ……だめっ……だめだめえっ！
イクのっ、いやあっ、あつ！ イっちゃうっ！ やつ、あつ、んんうつ、んお“つ♡」

「な、中出しするんですかっ……！？ や、や、やつ！ あつ♡ らめっ！ らめらめえ！
あううつ、お“、お、お“つ、んお“おおつ♡」

SE:射精

「んつふあああああああああああああああああつ……♡」

//演技指導:囁き

「んふああああつ……つあああつ……んおおつ……
あつつい……♡ ドクドクつ……注がれますうう……！」

「知らないおちんちんにっ……中出しされながらっ……
私、イっちゃってますうつ……は、ああっ……お“……お“おお……♡」

「あひっ……ひいっ……はーっ……はーーーっ……！」

これ……知ってるう……！ 私、何度も……はあ一つ……♡」

「たまんないよお……♡ 中出し……子作りセックスうう……
はー……はああ……♡ あ……あああ……♡」

「あなたのおちんぽに……私、メロメロにされちゃいましたあ……♡
ああ、はあ……はあ……また、あなたと……子作りしたいですう……♡」

SE:土に倒れる音

「あひっ……ひんっ……おちんぽ……抜けちゃいましたあ……
ああ……まだ……まだですう……もっと、もっと……欲しいよお……♡」

「はーつ……おちんぽ……はーつ……あなたの……おちん、ぽ……はあーつ……♡」

SE:指パッチン

「んっ……」

(声をだんだん遠ざけていく)

SE:土を踏みしめる音も一緒に遠ざかる

「あ、れ……私…………こんなところで……何をして……ふえ……
はあ……はあ……あれ…………？ あれ……？」

//トラック4

SE:鳥のさえずり

SE:ほうきで掃く音

「はあ……いい天気ですね。
今日も素敵な一日になりますように……」

SE:砂利を踏んで近づいてくる音

「あ、和菓子屋のおじいさま！ おはようございます。
腰の調子はいかがですか？」

「……わあ、良かったです！ お祈りが神様に届いたんですね」

「ふえ……？ お礼のおまんじゅう？
い、いいんですか？ もらっちゃって」

「えへへ、ではお言葉に甘えて……！
今日はつまみぐいせず、お勤めが終わったらお部屋でゆっくり頂きます」

「ありがとうございましたおじいさま。
また和菓子、買いにいきますね～！」

SE:砂利を踏んで遠ざかっていく音

「えへへっ……おまんじゅう、楽しみだなあ……。
よ～し、美味しく食べるためにも、お勤め頑張らなきゃ！」

SE:砂利を踏んで近づいてくる音

(主人公が声をかけてくるが忘れてるので笑顔で対応)

「あ……おはようございます！
あまりお見掛けしない方ですね……何かお困りのようですが、どうされましたか？」

「え？ 相談がある……ですか。
わかりました……なんでしょう？」

SE:指パッチン

SE:催眠の音

「つつ……」

「安産祈願のご祈祷……おちんちんに、ですね……
はい……！ では……あちらへ参りましょう……うふふふふ……♡」

(おしまい)